

行動計画改定の概要

●プロジェクト3年目(2020年)の結果

- ✓ 総輸出量は約36キロリットル(2018年31キロリットル、2019年44キロリットル)
- ✓ 海外輸出を行った酒造所は24社(2018年22社、2019年21社)
- ✓ 輸出先国は20の国・地域(2018年は14、2019年は23の国と地域)


●「琉球泡盛海外輸出プロジェクト」では、現下の情勢を踏まえ、琉球泡盛の輸出拡大への課題に取り組み、泡盛酒造所の海外輸出に向けた取組を官民一体となって後押ししていきます。

●そのため、国内外の状況も踏まえつつ、2021年度以降の輸出量を最大限増加させるべく、これまでの「訪日外国人に対する視点」、「海外市場に対する視点」、「具体的な商流につなげるビジネスの視点」といった3つの視点での取組みの強化・深化を進めていくとともに、引き続き非対面・遠隔での取組みも推進していきます。

●会員の具体的な行動として、6分野66の支援事業を実施予定

- (1)情報発信の強化:10事業
- (2)効果的な販路拡大・市場拡大:18事業
- (3)品質・技術の向上／人材育成:6事業
- (4)ブランド力の向上:17事業
- (5)輸出環境の整備:9事業
- (6)インバウンドとの連携:6事業

※再掲を含む



(参考) 具体的な行動の例

【新規支援事業】

(4) ブランド力の向上

- ⑩泡盛ジブナーを活用した認知度及びブランド力の向上【内閣府沖縄振興局・沖縄総合事務局・沖縄県酒造組合・沖縄国税事務所】
- ⑰海外における商標を中心とした出願支援【(独)日本貿易振興機構】

【継続支援事業】

(1) 情報発信の強化

- ⑦情報発信ツールの整備と活用【国税庁、沖縄国税事務所】

(2) 効果的な販路拡大・市場拡大

- ⑤オンラインとリアルを併催したハイブリット型商談会(第9回沖縄大交易会2021)の開催【(公財)沖縄県産業振興公社・沖縄県】
- ⑱海外需要創出等支援対策事業【農林水産省】
- ⑲泡盛特化型輸出支援パッケージ【(独)日本貿易振興機構】

(5) 輸出環境の整備

- ⑤関税引下げ及び地理的表示の保護に向けた交渉【外務省、国税庁】
- 